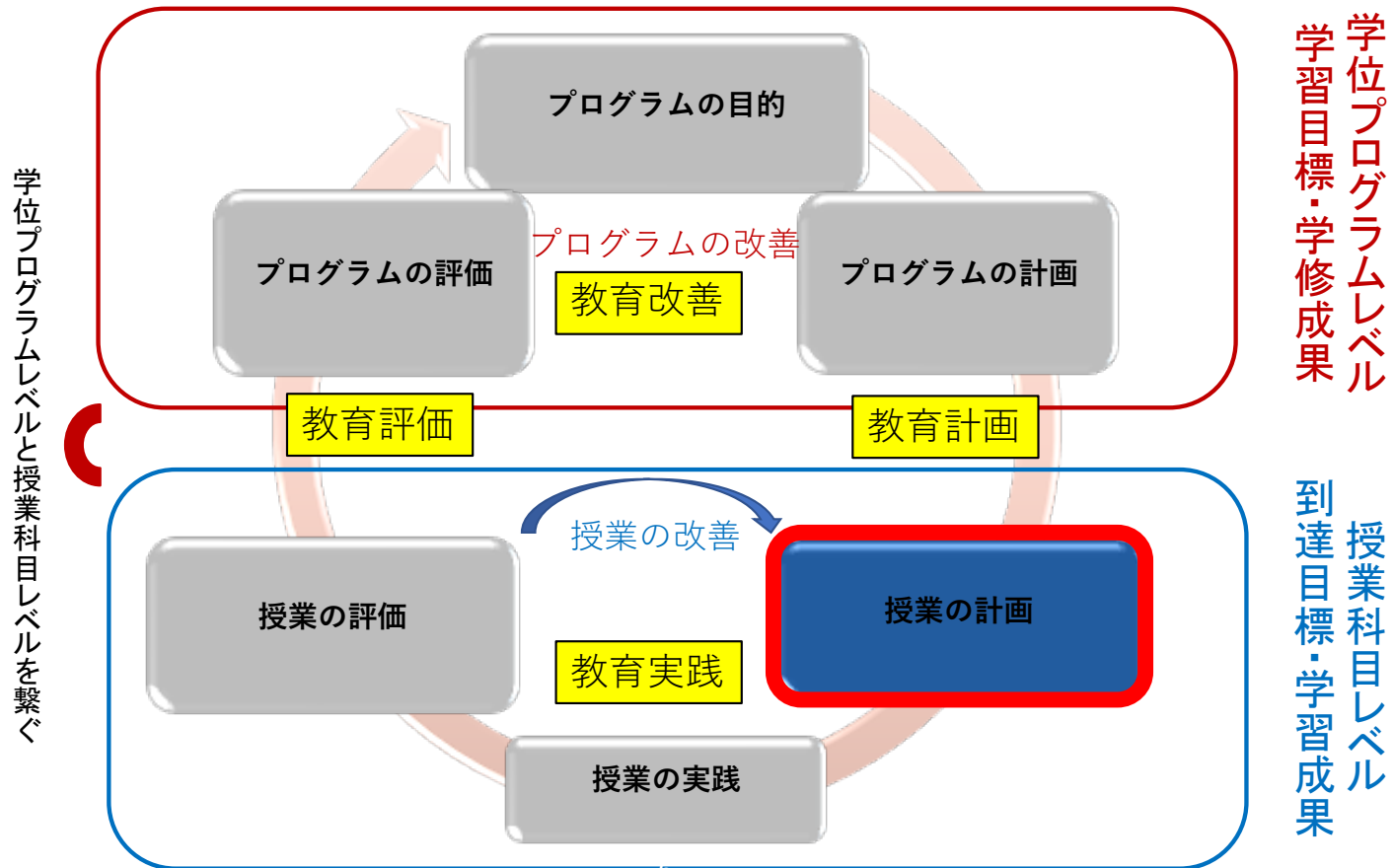


# 授業計画をどのように 作成するか

# 今回のスライドは・・・

## 九州大学教育実践枠組み “From my course to our program.”



# シラバスとは

- 各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。

(中央教育審議会，2008，用語解説)

# シラバスの役割

1. 授業選択ガイド
  2. 契約書
  3. 学習効果を高める文書
  4. 教員と学生の間関係づくりのツール
  5. 授業の雰囲気伝える文書
  6. 授業全体をデザインする文書
  7. カリキュラムに一貫性を持たせるツール
  8. 教員の教育業績記録の証拠
- (佐藤ほか, 2015, pp.2-3)

# 九州大学のシラバスの構成

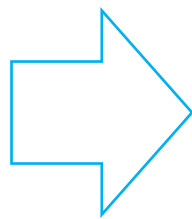
基本情報		詳細情報	
講義コード	担当教員	授業概要	授業外学習
講義科目名	開講学部・楽譜	キーワード	テキスト・参考書
科目ナンバリングコード	対象学年	授業形態 (項目・内容)	授業資料
授業科目区分	開講地区	使用する教材等	成績評価
開講年度	使用言語	履修条件等	成績評価規準に関わる補足事項
曜日時限	使用言語 (自由記述欄)	履修に必要な知識・能力	ルーブリック
必修選択	教室	到達目標	学習相談
単位数		授業計画	添付ファイル

→以下では赤字の箇所について、説明をしていきます。

# 説明の順番

- 現在のシラバスの順番

1. 授業概要
2. 到達目標
3. 授業計画
4. 授業外学習
5. テキスト・参考書
6. 成績評価



- 説明の順番

1. 授業概要
2. 到達目標
3. 成績評価
4. 授業計画
5. 授業外学習
6. テキスト・参考書

→現在進行中の「**学習成果を中心とした教育**」の観点から、上記の順に説明を行います。(詳細は末尾「**発展**」資料)

# 「授業概要」のポイント

① この授業の存在意義を書く

➤ 「なぜこれを学ばなければならないのか？」

② 学生を主語にして書く

「○○について説明する、概説することを目的とする」  
(**教員**が主語)

→ 「○○について知り、理解できるようになることを目的とする」

(こちらは**学生**が主語)

◆ 授業概要では、後述の到達目標と異なり、以下のような複雑な、また、総括的な概念を持つ動詞を用いて表すことが多い。

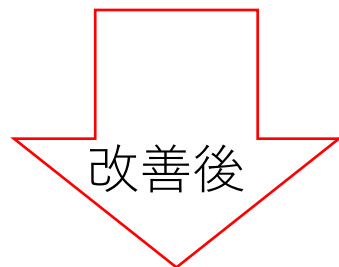
知る	認識する	理解する	感ずる	判断する
価値を認める	評価する	位置付ける	考察する	使用する
実施する	適用する	示す	創造する	身につける

(佐藤ほか, 2015, p.6)

# 「授業概要」の例

微分積分について説明し、概説することを目的とします。

- この授業の存在意義が書かれていない
- 教員が主語になっている



工学部で学ぶ学生にとって微分積分と線形代数は、科学・技術を学ぶために必要不可欠かつ最も基本的な世界共通の「言語」です。この講義は、微分積分の分野の「言語」を積み上げ式にしっかり学び、この「言語」で表現された本質的内容を理解し、言葉や文章として使えるようこの「言語」を身につけることが目的です。

(中島編, 2018, p.60)



# 「到達目標」のポイント

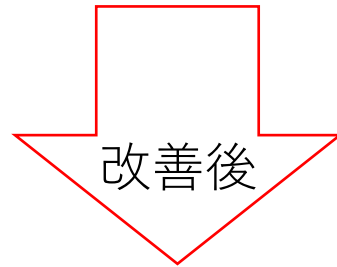
- 到達目標
  - ▶ 授業終了後に学生にできるようになってほしいこと
- 良い到達目標が満たす条件（SMART）
  - ① **Specific**：獲得する知識や技能が具体的に設定されているか
  - ② **Measurable**：目標の到達は評価できるか
  - ③ **Achievable**：学習者が達成可能なものか
  - ④ **Relevant**：学習者のニーズにあったものか
  - ⑤ **Timely**：社会や時代のニーズにあったものか
- 悪い到達目標によく見られる表現
  - 「理解する」「理解を深める」
    - ▶ 状態が**具体的**ではなく、**測定もしにくい**
  - 「○○を読む」「考察する」
    - ▶ 学生に到達してほしい状態ではなく、**単なる活動**を示すにとどまっている

（夏目ほか，2017，p.33）

# 「到達目標」の例

印象派絵画について感受性を高め、作品をじっくりと味わう。

- 抽象度が高く、具体性に欠ける
- 測定可能でなく、目標の達成状況を判断しにくい



印象派絵画の芸術的価値について、1980年までの通説と1990年以降の通説の違いを踏まえて、説明することができる。

(佐藤ほか, 2015, p.7)

# 「到達目標」に使うと良い動詞



アタマ

デザインする  
創造する  
批判する  
結論する  
適用する  
応用する  
使用する  
一般化する  
推論する  
特定する  
選択する  
予測する  
関係付ける  
例を挙げる  
比較する  
分類する  
説明する  
記述する  
述べる  
列挙する



カラダ

測定する  
準備する  
調べる  
触診する  
触れる  
手術する  
動かす  
操作する  
創造する  
行う  
実施する  
工夫する  
熟練する  
模倣する  
感じる

上に行くほど、より  
抽象的で複合的な  
到達目標を表す。

( [https://tlsc.movabletype.io/support\\_text/](https://tlsc.movabletype.io/support_text/) )

# 態度・志向性の評価について

個人の内面への過度な侵入か？

➤ 成績に含まない、観察やアンケートなどでの把握



- 応える
- 反応する
- 寄与する
- 相談する
- 行う
- 感じる
- 助ける
- 見せる
- 示す
- 尋ねる
- 討議する
- コミュニケーションする
- 参加する
- 配慮する
- 協調する

上に行くほど、より抽象的で複合的な到達目標を表す。

成績評価の対象に

する

しない

到達目標に含める

授業概要に入れるに留める

授業評価アンケートで確認する

( [https://tlsc.movabletype.io/support\\_text/](https://tlsc.movabletype.io/support_text/) )

# 「成績評価」のポイント（方法）

- ① 到達目標に合わせて選択。例えば「知識の定着」を確認するには筆記試験を行う、「思考力や判断力」を測るにはレポート課題を課す、など。
- ② それぞれの方法が全体の成績評価をどのように決めるのかを説明する(割合で示す、など)。

目標に対応した評価方法の選択（中島編, 2018, p.36を元に作成）

	知識・理解	専門的スキル	汎用的スキル	態度・志向性
客観テスト	○	○	○	
記述テスト	○	○	○	
レポート	○	○	○	○
観察法	○	○	○	○
口頭試問	○	○	○	○
実演		○	○	○
ポートフォリオ		○	○	○
質問紙法				○

# 「成績評価」の例

- 「授業中に説明する」
- 「授業中の活動を見て総合的に評価する」

➤ 成績評価がどのように行われるのかに関して不安を抱えたまま学生は授業を受けることになる

改善後

	知識・理解	専門的スキル	汎用的スキル	態度・志向性	備考
学期末試験	○	○			55%
小テスト	○		○		5%
レポート	○	○	○	○	25%
プレゼン					
授業への貢献度					
作品					
出席					15%

# 「授業計画」のポイント

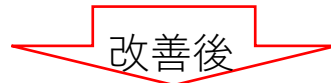
- ① 「到達目標」「成績評価」に対応させる
  - 「この評価課題に学生がしっかりと取り組むためには、どのような学習が必要か？」
- ② 授業全体の中での効果的な配列を考える
  - 原則は「易しいものから難しいものへ」「基礎から応用へ」というものがあるが、必ずしもこの順番でなくとも良い。学習者のモチベーションが低い場合には、あえて難しい内容や応用の内容を先に持ってくることで、モチベーションを喚起するのも効果的。
- ③ 授業外学習も含めて授業全体を計画する
  - 後述の「授業外学習」を参照。

(佐藤ほか, 2015, p.9)

# 「授業計画」の例

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2-7回	〇〇を読む
第8回	振り返り

- 各回で何を学習したか振り返りにくい
- 章やトピック名を、確定次第反映させたい



授業計画	ミクロ経済学入門
第1回	イントロダクション
第2回	経済学者らしく考える
第3回	相互依存と交易からの利益
...	...
第8回	外部性、公共財と共有資源
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業前：テキストの該当する章を読む</li> <li>• 授業後：eラーニングの問題に取り組む</li> </ul>	

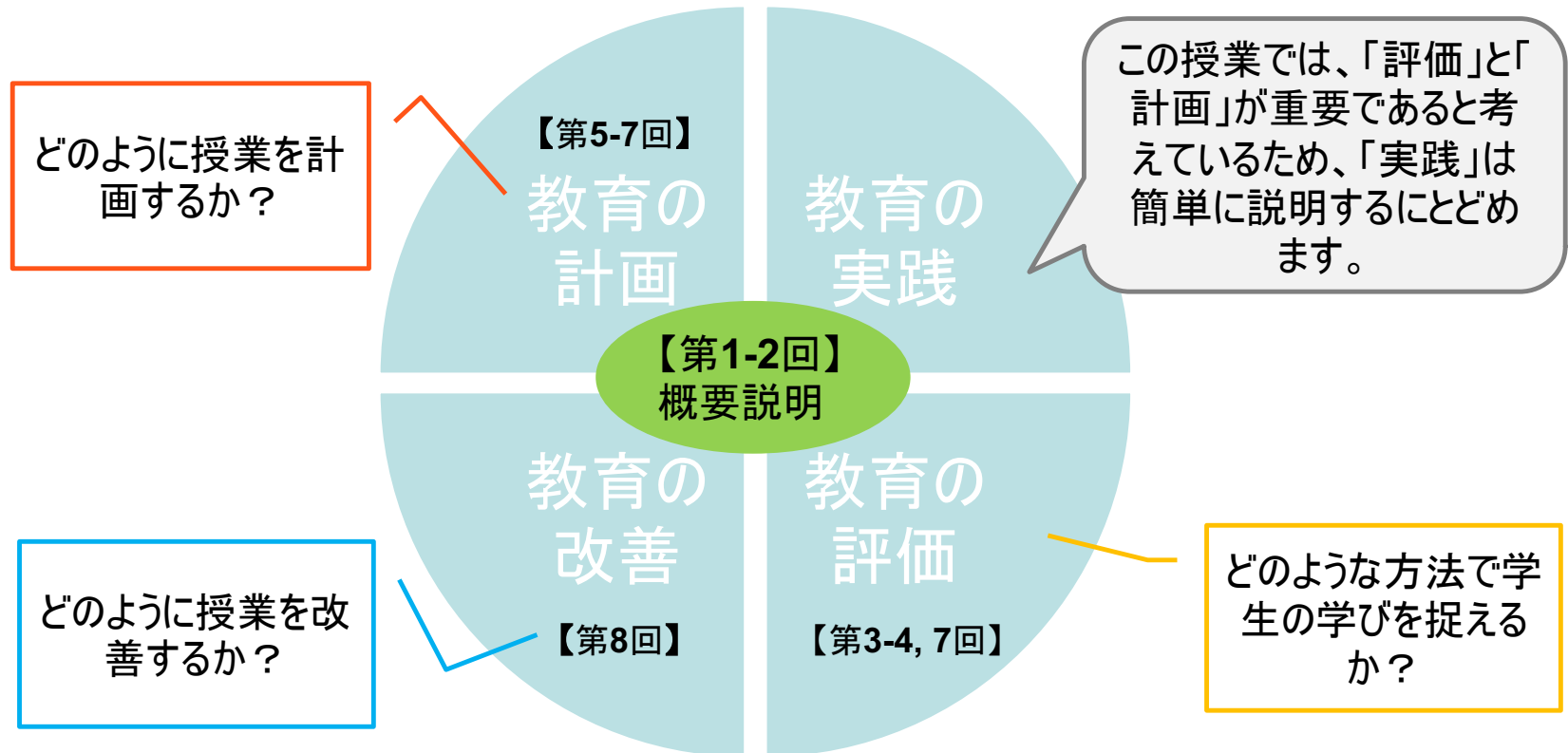
スケジュールを毎回  
具体化できない場合：

第2-5回：  
学生が選んだテーマの  
グループディスカッ  
ション



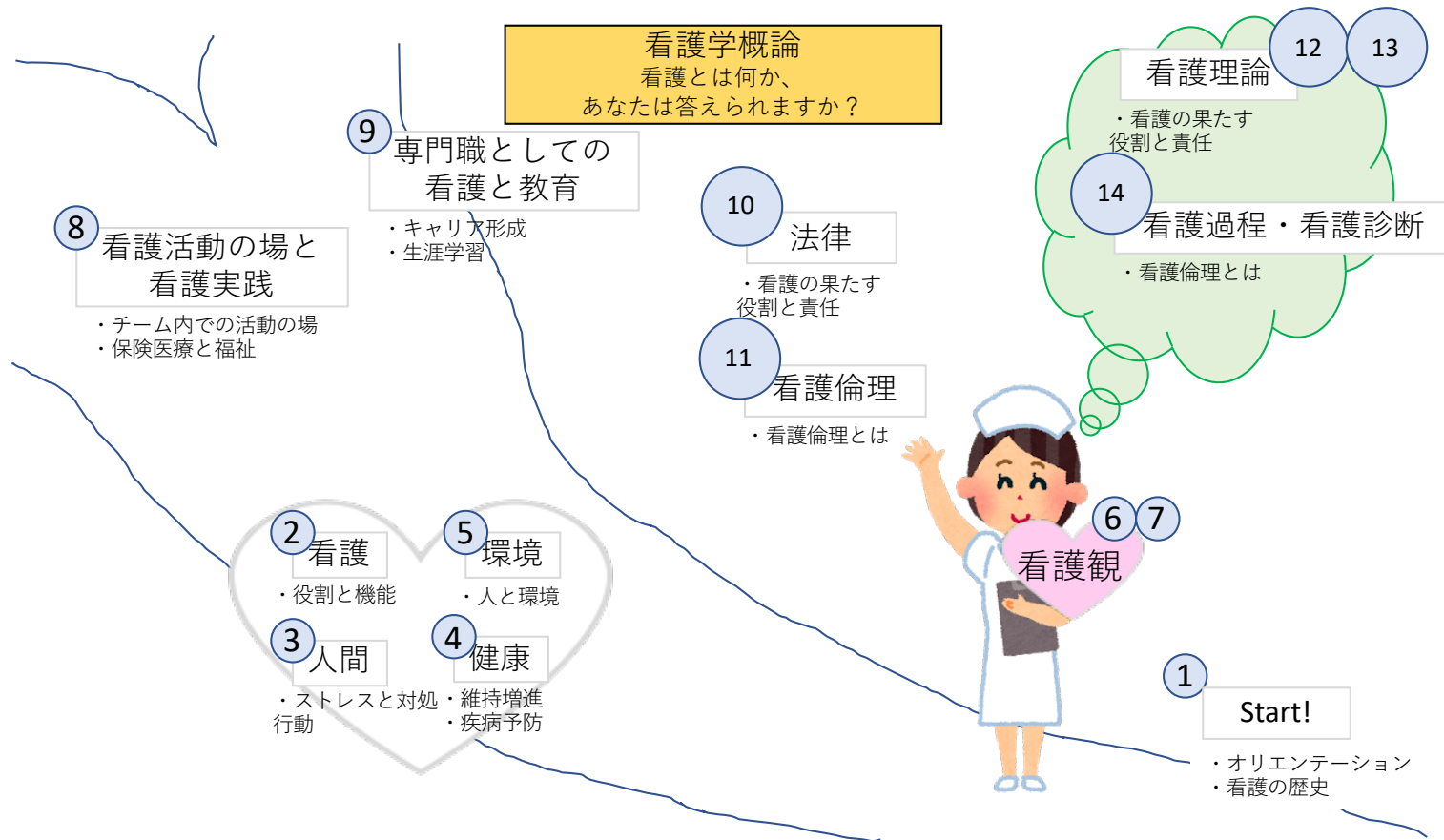
# グラフィック・シラバスのススメ

例①：インストラクショナル・スキルズ2の場合



# グラフィック・シラバスのススメ

## 例②：看護学概論の場合



(日下部, 2015)

# 「授業外学習」のポイント

- ① 到達目標に沿っている
- ② 授業時間内の学習とつながりをもっている
- ③ 達成可能なレベルと量である
- ④ フィードバックの機会がある (中島編, 2018, pp.85-86)

学習活動	授業外学習活動の例
読解	「教科書の予習・復習をする」 「課題文献を読む」
視聴	「オンライン教材の講義を視聴する」 「英語のリスニング課題を聞く」
ライティング	「課題レポートを書く」 「実験レポート・実習記録を書く」 「発表用のスライドを作成する」
問題演習	「教科書の演習問題を解く」 「小テストを解く」
ディスカッション	「図書館でグループディスカッションをする」 「オンラインでディスカッションをする」
フィールドワーク/観察	「実験作業を観察する」 「フィールドワークをする」

# 「授業外学習」の例

- 毎回の授業で予習と復習につとめること
  - 授業時間内の学習との関係が不明かつ、内容の指定もないため取り組みにくい
- 特になし、あるいは、書いていない
  - 授業外で学習に取り組む必要はないというメッセージになってしまう



- 毎回、講義内容で分かりにくいと思われる箇所の補足資料を配付し説明する。また、講義の理解度を確認するため、毎回、小テストを実施し、その解答例を配布する。初回講義で配布するテキスト、毎回の講義で配布するこれらの資料で復習に努めること。
- 毎回の授業で扱われる教材について、指定された箇所についてはあらかじめ読んでから授業に臨むこと。それを前提に授業を行う。

# 「テキスト・参考書」のポイント

- ① 学習に必要な文献や資料と、発展的・補助的な学習に用いる文献や資料を区別して示す
- ② それらの文献や資料を、学生がどのように活用すればよいかを示す

- ▶ 「テキスト・参考書」を充実させると、授業外学習時間の増加も期待できる。
- ▶ 授業中に臨機応変に他の資料を示すことは可能だが、シラバスにもしっかりと書いておくこと。（「授業中に適宜紹介する」ではなく。）

（中島編, 2018, p.75）

# 「テキスト・参考書」の例

- テキスト

『大学教員準備講座』 夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子，玉川大学出版部，2010.

- 参考書

【具体的な授業の方法について学びたい時】

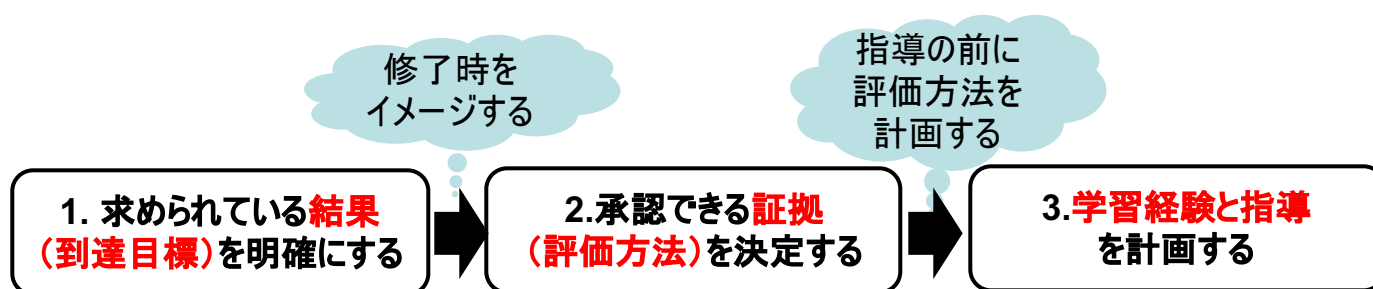
『アクティブラーニング』 中井俊樹，玉川大学出版部，2015

(オススメ度：★★★★☆)

→アクティブラーニングというと、グループワークやプレゼンテーションが主に想起されるが、実はその方法は様々なものが提案されている。そのため、「第3部 さまざまなアクティブラーニングの方法を活用する」を読めば、多様なバリエーションでアクティブラーニングを実施することが期待できる。

# 発展：「逆向き設計論」の考え方

- 通常：「目標→計画→評価」の順番
- 逆向き設計論：「目標→**評価**→計画」の順番



逆向き設計論 (西岡編, 2008, p.13)

➤ **評価方法を先に**考え、そこから逆算的に授業計画を考えることで、教員が身につけさせたい能力を、よりしっかりと指導に反映させることを可能にするカリキュラム設計の考え方です。現在の「**学習成果を中心とした教育**」をデザインしやすい方法です。

# 参考資料

- 中央教育審議会（2008）学士課程教育の構築に向けて 用語集 ([https://tlsc.movabletype.io/support\\_text/](https://tlsc.movabletype.io/support_text/))
- 日下部華苗（2015）「グラフィックシラバスでめざす授業改善①看護学概論」『看護教育』56(12), 1159-1163.
- 夏目達也ほか（2010）『大学教員準備講座』玉川大学出版部
- 中島英博編（2016）『シリーズ大学の教授法1 授業設計』玉川大学出版部
- 西岡加名恵編（2008）『逆向き設計で確かな学力を保障する』明治図書.
- 大阪大学（2015）「大阪大学シラバス作成のためのハンドブック」 ([https://tlsc.movabletype.io/support\\_text/](https://tlsc.movabletype.io/support_text/))
- 佐藤浩章編（2015）『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部





- 連絡先

- 教育改革推進本部
- センター1号館4階 1409
- [innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp](mailto:innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp)
- 担当：長沼